

2007年5月17日  
京都府印刷工業組合  
理事長 吉川宣治

## 印刷の「京都ブランド」を目指して

京都府印刷工業組合は、京都府の平成18年度補助金事業である「京都ブランド・新分野開拓事業」に参加し、「印刷の京都ブランド開拓事業」に取り組みました。

京都の印刷は、平安時代の木版による経本印刷まで遡ります。以来京都の印刷は、京都の文化の発展と共に発展してきました。

1455年にグーテンベルグが活版印刷を発明し、これにより当時手書きだった聖書の大量複製が可能となり、キリスト教の発展に大いに寄与しました。この後、印刷技術は情報や知識を広め、文化を発展させ産業革命へとつなげました。

京都でも明治初期に印刷の祖、本木昌造先生が京都で活版印刷を始め、印刷は、経典だけでなく、茶道や華道など文化の普及・発展、西陣織や友禅染など伝統産業の普及や販売促進にも深くかかわるようになりました。

京の文化・伝統や西陣織等への印刷は、その技術を長い時間の中で深いものにし、「色へのこだわり」「印刷体裁」「デザイン」など京都らしい印刷技術を確立してまいりました。

しかし近年のコンピュータ技術の急激な発展は、印刷技術を平板化させ、個人の印刷を可能にさせました。印刷産業の特殊性と専門性は急速になくなってまいりました。

この様な中、京都らしい印刷技術を持ってまいりました私達は、「その価値を世に認知して頂かなくてはならないのではない。そうでないと平板化に埋没してしまう。」との危機感をもちました。

そこで、京都府印刷工業組合では、一昨年より「自分自身の存在意義」すなわち、「京都らしい印刷物」についてアンケート調査や独自で勉強会を開催してまいりました。

昨年、京都府中小企業団体中央会のご指導により京都府の「京都ブランド・新分野開拓事業」に申請し認可を受けました。この助成事業により昨年度、「印刷の京都ブランド開拓事業」を取り組みました。その結果を報告書としてまとめました。(添付資料)

**その概要は以下であります。**

京都らしい印刷物については、次の二つを中心に研究調査を行ないました。

1. 色。京都らしい色
2. 文字、フォント。京都らしい文字、読みやすい文字

その結果として

1. **色については**、京都造形芸術大学の藤井教授の指導を受け、京都らしい地名などをつけた12色を選定しました。  
京都らしく和紙を利用したお経本風のカラーチャートを作成しました。(添付資料)
2. **文字フォントに関しては**、「文章は縦組みであることが基本であり、こここそが京らしく、縦書きにして読みやすい楷書体系が望ましい。」との調査結果を元に、縦組みに適した丸みのあるほんなりとしたひらがな、「京ひらがな」を開発しました。
3. **さらに印刷の「京都ブランド」をイメージできるようなロゴマークを試作しました。**

**現在**、京都をあげて取り組まれている「京都ブランド」や「京都の都市格やイメージの向上」の表現にも、京都らしい色や京都にふさわしい文字フォントは不可欠であります。

**今後**は、京都府印刷工業組合、すなわち京都府下の印刷業者が今回作成した京都らしい色や文字を使った印刷物を提供し、これらの印刷物を通して「印刷の京都ブランド」すなわち「京刷りもの」として認知されるのを目指しています。

**最後に**、京都の各企業の皆様、京都ブランドに関係されている方々には、広告宣伝の印刷物や、商品の箱、包装紙など京都らしい印刷物は京都の印刷会社に命いただくことを願い、印刷の「京都ブランド」を目指してのご報告とさせていただきます。

以上